

III 社内外の評価及びご意見

1. 第15回 九州電力環境顧問会

2016年1月22日に「第15回九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

九州電力環境顧問会委員 (50音順、敬称略)



あさの なおひと
浅野 直人
福岡大学名誉教授
中央環境審議会会長



おおつか まさお
大塚 政雄
環境省環境力カウンセラー
(市民部門)



かど ひさよし
門 久義
鹿児島大学名誉教授



つる た さとし
鶴田 暁
九州地域環境・
リサイクル産業交流プラザ会長



なが た こ
詠田 トキ子
NPO法人
みやざきエコの会理事長



はやせ たかし
早瀬 隆司
長崎大学大学院 水産・
環境科学総合研究科 教授



会議風景

(注) 早瀬委員は都合により欠席されたため、別途ご意見をいただきました(顔写真は第14回(2014年12月)のものを使用)。ご所属は2016年1月時点で記載しています。

[ご意見の概要と対応方針]

主な意見	今後の対応方針
<p>【CO₂排出抑制への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低炭素社会実行計画の達成に向け、自主行動計画の枠組みの中で動いていくには縛りがあるが、電力自由化においては、困っている点を原因も含めて積極的に情報を開示し、個社の努力を表に出すことが必要ではないか。 ○環境の仕事を始めて25年ほどになるが、宮崎の川南町にバイオマス発電所(みやざきバイオマスリサイクル株式会社)があることを知ったのは3年くらい前である。 環境に配慮し、地域に貢献している取組みをもっと発信していくことが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 早期に原子力発電所が再稼働したことや、地熱開発が他地域より進んでいることなど、当社のCO₂排出抑制の取組みでの強みや努力を分かりやすく環境アクションレポートに記載しています(P4・P13)。また、再エネ導入や省エネ推進等の抱えている課題なども合わせて示すことで、お客さまにご理解していただけるよう環境アクションレポートに記載しています(P3・P12)。 • 環境に配慮し、地域に貢献しているバイオマス発電などの取組みについて、環境アクションレポートに記載しています(P15)。また、積極的に情報発信やPRに努めていきます。

用語集をご覧ください

>> バイオマス
>> 低炭素社会

第15回 九州電力環境顧問会	49
環境アクションレポートの読者アンケート	51
エコ・マザー活動におけるアンケート	52
環境に関するお問い合わせ等への対応	52
社外評価	52

社外ステークホルダーのご意見

多様な意見を取り入れる姿勢が
大切である。

▶ P 49～50 第15回九州電力環境顧問会

III

社内外の評価及びご意見

主な意見	今後の対応方針
<p>【CO₂削減目標達成に向けた当社の取組み】</p> <p>○CO₂削減に向けた当社の取組みである「省エネ」について、エコキュート等の普及促進を含め、省エネ講座や次世代層向け教育を継続することで、お客さまに省エネの重要性をご理解していくことが大事ではないか。</p> <p>○エネルギー問題は、バイオマス、地熱、水力、風力などの自然と共存するエネルギーを活用することが重要であり、引き続き、再生可能エネルギーの推進に取り組んでもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○お客さまの省エネに貢献できるエコキュートの普及促進をはじめ、今後も引き続き、お客さまの省エネにつながる省エネ講座や、次世代層向けの教育でもあるエコ・マザー活動、出前授業などを実施することで、省エネの重要性を伝えていきます (P19・P34)。 ○国産エネルギーの有効利用や地球温暖化対策面で優れた電源である再生可能エネルギーへの取組みについては、中期経営方針及び環境アクションプランにて発電量目標を掲げており、グループ一体となって、地熱・水力を中心に、安定供給や環境性等を考慮しながら、国内外で開発を進めていきます (P9～10・P12)。
<p>【環境保全への取組み】</p> <p>○環境負荷低減に向けて努力している取組みについては、もっと具体的に環境アクションレポートへ記載すべきである。また、設備が古い火力発電所を稼働せざるを得ない状況や、これに伴い、CO₂、SO_x、NO_xなどの環境負荷が上昇している実情をしっかりとデータで示すことが必要ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力発電所の停止により、古い火力発電所を稼働せざるを得ないことや、当社のCO₂排出量や大気汚染に繋がるSO_x、NO_xの排出量などの環境負荷が増大している状況について、お客さまにご理解いただき、環境負荷低減に向けた取組みの重要性をより認識していただけるよう環境アクションレポートにグラフやデータを使用して記載しています (P4・P7～8・P11・P27)。
<p>【再生可能エネルギー受入への対応】</p> <p>○九電の再エネ受入保留の話の聞いていると、太陽光発電の正当性を否定されているように感じるが、再エネは良いものであり、増やしたいが増やせないのはおかしいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギーの受入に対して、大容量蓄電システムによる実証試験やスマートグリッド実証試験など、受入量拡大に向けて取り組んでいることについて、お客さまにご理解していただけるよう環境アクションレポートに記載しています (P3・P16～17)。
<p>【地域と連携した環境保全活動について】</p> <p>○活動を継続するためには、地域との連携や地域の声を反映できる体制づくりが必要ではないか。</p> <p>○坊ガツルには、環境省の事務所があり、環境省にとっても非常に重要な阿蘇くじゅう国立公園に含まれていることから、環境省や周辺の行政(大分県、竹田市、九重町など)と積極的に連携し、環境保全活動に取り組むことで幅が広がるのではないか。</p> <p>○社外PRについては、大分のテレビ局、新聞社だけでなく、九州全体に流れる福岡の放送局にも知ってもらうことで、幅が広がるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年5月12日に、九州の豊かな自然環境の保全活動や環境教育活動、次世代の育成を支援する活動等を行うことにより、九州地域に広く貢献することを目的とした「一般財団法人 九電みらい財団」を設立しました。今後は、この財団を通じて長年にわたり地域の皆さまと取り組んできた大分県坊ガツル湿原での環境保全活動や、当社の水源涵養林を活用した環境教育を充実させていきたいと考えています (P32～33)。 ○これまでも、環境教育の参加者募集や環境保全活動の際、環境省くじゅう自然保護官事務所や竹田市、九重町と連携を図っており、今後も連携を継続していきます (P32)。 ○今後は、福岡のマスコミに取材要請を働きかけるなど、九州全体の認知度を高めていくとともに、SNSを通じて、お客さまのニーズを踏まえた魅力ある情報発信を実施していきます。

用語集をご覧ください

>>再生可能エネルギー
>>地球温暖化

>>SO_x (硫黄酸化物)
>>NO_x (窒素酸化物)

>>大気汚染
>>スマートグリッド

>>水源涵養